

〈詳報〉

# MF-Tokyo2013に見る 鍛圧機械・周辺技術 の潮流



## モノづくり現場の課題に対応する技術を披露

日本鍛圧機械工業会と日刊工業新聞社が主催する「MF-Tokyo 2013 プレス・板金・フォーミング展」が7月24～27の4日間、東京ビッグサイトで開催した。3回目となる今回は国内外から201社・団体が162小間に出展し、最新の塑性加工技術を広くアピールした。来場者は2万9,631人と、過去最高となった。じっくりとブースで話し込む姿が多く見られ、塑性加工技術の専門展として定着してきた印象を受けた。

「マザーマシン鍛圧機械と塑性加工・レーザー加工の技術の進化」をサブテーマに、高精度化への取り組みや環境技術、安全対策などに重点を置いた製品が多数みられ、新しい塑性加工技術の方向性が示された。加工領域の拡大、自動化や省エネルギー化によるコスト削減などモノづくり現場の課題解決につながる提案が行われ、レーザー加

工やサーボプレス、自動化・複合化に関する技術の進化がみられた。

サーボプレスでは生産性や精度の向上に向けたアピールが目立った。センサーによって稼働状況を把握し、トラブルを最小限にとどめて生産性を高めるシステムや燃料電池の金属セパレータの流路形成を実演するなど最新の取り組みを紹介。レーザー加工機では世界的な潮流となっているファイバーレーザーに注目が集まった。薄板の高速切断や厚板への対応、省スペース化など国内ユーザーに焦点をあてた技術提案が行われ、コスト競争力の強化への対応が示された。自動化・複合化ではタレットパンチプレス、搬送装置、レーザー加工機の連携やプレスブレーキとロボットを一体化するといった複合加工の先端技術を紹介。日本市場に求められる多品種少量・変量生産に適したシステムづくりが多数出品された。次頁から注目された技術の一部を紹介する。